

私の妹は、生まれつき「心房中隔欠損症」という病気を持っています。この病気は、心臓の右心房と左心房の間を隔てる筋肉の壁にあなが開く病気で、先天性疾患は百人に一人の割合で起こると言われています。

そんな私の妹は、生まれてすぐに病気が見つかり、大きな病院に運ばれました。私はこの時三歳だったので覚えていませんが、父と母はとても不安だったそうです。妹は、幸い命に別状はありませんでしたが、それからは年に一度、電車で一時間ほどかかる病院に通うことになりました。

そして、私が小学四年生になる年の春、妹がカテーテルの手術を受けることになりました。この手術を受けるためには一週間の入院が必要で、私は祖母の家で生活することになりました。父と母は毎日妹のお見舞に行っていたので、私は寂しくてたまらなかったことを今でも覚えています。そんな状況で一週間を過ごし、妹は無事に退院することができました。寂しくてたまらなかった一週間も、家に帰ってきた妹の笑顔を見ると、頑張って良かったなと思うことができました。

妹は、本来なら何百万円もかかる手術を、大阪市の「こども医療費助成制度」のおかげで、五百円ほどで受けることができました。もし日本に税金を納める制度がなければ、もし妹が日本で生まれていなかったら、私は妹の笑顔を一度も見ることができなかつたかもしれません。私の妹は、私は、私の家族は、税に助けられました。

今、私の妹は毎日元気に学校へ通っています。将来、ファッションデザイナーになることを目標に、日々服のデザインを考えています。また、私が大人になって結婚するときには、ウエディングドレスを作ってねと約束しています。将来の話をするのは本当に楽しいし、妹とそんな話ができるのは幸せなことだなと思います。

私の将来の夢は、学校の先生になることです。この夢を叶えるために、私は、税金が大きく関わっている学校という場所で、もっと沢山の事を学んでいきたいと思っています。また、公務員のお給料は税金から払われるので、私はこれからもずっと、税と向き合いながら生活していきたいと思っています。

病院と学校、場所は違いますが、私の妹のように苦しんでいる子ども達を支えて、明るい未来を見せてあげられるような先生に、私はなりたいです。そしてたくさん子ども達に、税の大切さを伝えていきたいです。